

日中韓フォーサイト事業の終了時評価の実施について

1. 趣 旨

(1) 「日中韓フォーサイト事業」の目的

日中韓フォーサイト事業は、我が国と中国・韓国の研究機関が連携して世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び優秀な若手研究者の育成を行うことにより、3カ国を中核としてアジアに世界的水準の研究拠点を構築することを目的とする事業で、先見性や将来への展望などを意味する“foresight”の名を冠しています。本事業においては、3カ国の拠点機関が、「共同研究」、「学会合（セミナー）」、「研究者交流」を効果的に組み合わせ実施するものとしています。

なお、本事業による支援期間終了後も、拠点機関において、アジア地域における世界的水準の研究拠点として継続的な活動を実施することを期待しています。

(2) 終了時（最終年度）評価の目的

日中韓フォーサイト事業は、日本学術振興会（以下、「本会」といいます。）、中国国家自然科学基金委員会（NSFC）、韓国研究財団（NRF）が共同で支援を行っている事業であり、事業最終年度（3年目）にそれぞれの国で実施する評価結果により、2年間の延長も可能としています。

また、日中韓フォーサイト事業は、本会のアジア諸国との交流の中で大きな役割を果たすものであり、その実施状況及び成果について可能な限り公表することが必要とされています。また、大規模かつ長期間にわたる事業であるため、事業運営の透明性・公正性が特に強く求められます。

そのため、本会では、2年間の延長を希望する実施3年目に当たる交流課題について、これまでの進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、その課題を継続すべきかどうかを判断するための終了時評価を行います。その評価結果を基に3カ国の実施機関で協議を行い、延長の可否を決定します。

なお、実施期間終了時には（延長した場合には、延長期間を含む。）、事業によって得られた成果を明らかにするため、事後評価を実施します。

評価資料及び本会からの評価結果は、原則として公開します。

（参考）独立行政法人日本学術振興会 中期計画（一部抜粋）

事業の成果及び効果を把握することに努め、事業の改善に反映させ、その成果について広く公開する。
--

(参考) 日中韓フォーサイト事業実施要項 (一部抜粋)

第5条 本事業は、別に定める方法により、中間年度及び終了時に評価を行うものとする。

2. 終了時評価の方法及び評価項目

(1) 評価の方法

終了時評価は、日本側拠点機関から提出される評価資料に基づき、まず、書面評価において、学術的な観点からの評価を3名の国際事業委員会評価委員による書面評価にて行い、国際事業委員会における合議により総合的な評価を行います。

その後、3カ国の実施機関による協議により、その課題の継続の可否を決定します。

(2) 評価項目

これまでの研究交流活動による成果・実施状況、今後の研究交流活動計画について評価します。主な評価の観点は以下のとおりです。

① これまでの交流を通じて得られた成果

- ・ 研究交流活動を通じて「学術的側面」「若手研究者の育成」「研究拠点の構築」の観点から成果があったか。
- ・ 研究交流活動の成果から発生した波及効果はあるか。
- ・ 研究交流活動の成果として優れた研究業績が発表されたか。

② 研究交流活動の実施状況

- ・ 研究交流目標達成に向けて、「共同研究」「セミナー」「研究者交流」を適切に計画し、実施したか。
- ・ 国内外の拠点機関及び協力機関間の実施体制・協力体制等は適切であったか。
- ・ 研究交流活動の実施にあたり、適切に経費が執行されたか。

③ 今後の研究交流活動計画

- ・ これまでに構築した日中韓のネットワークを基盤として、学術的な成果及び若手研究者育成が期待される研究交流目標となっているか。
- ・ 2年間の交流延長の必要性や期待される成果が明らかであるか。
- ・ 目標達成に向けた計画が具体的であり、かつ実現性の高い内容となっているか。